

なまもろーど

The Name Read

ホームページアドレス
<https://ranshokai.jp/>

E-mailアドレス
info@ranshokai.jp

発行所 高岡教区寺族青年会
 住所 〒933-0878
 高岡市東上関466
 西本願寺高岡会館内
 発行人 初瀬部真亮
 編集者 広報部
 発行日 2022年3月31日

会長挨拶

鸞翔会

第二十四代会長 初瀬部 真亮



日頃より寺族青年会の活動に多大なご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。また各行事にて法要出勤など活動の場をいただいておりますこと、重ねてお礼申し上げます。

さて、昨年より新体制のスタートとなり早一年が過ぎました。振り返ってみますと、繰り返される新型コロナウイルス感染症拡大の余波を受け、当会の活動も幾度となく停滞を余儀なくされました。各行事の中止・延期をはじめ、サークル活動などの親睦の場も失われる中で、はやる気持ちとは裏腹にもどかしい時間を過ごすことも多かったですように思います。

しかしながら、月例会議や各種研修会をオンライン形式で開催するなど、現在の社会状況に対応しながら、まずは出来ることからと会員それぞれが前向きに話し合い、活動を進めてきたのも事実です。

その中でも、鸞翔会担当の浄青僧本山総参拝の企画では、日々推移する全

国の感染状況に不安と葛藤を抱えながらも、会員それぞれがアイデアと情熱を持って取り組み、現地本願寺における通常開催を目標に準備をしてきました。総参拝における研修主題は「いのちのつながり」を改めて見つめ直すというものであり、コロナ禍によって加速度的に変化したコミュニケーションのあり方や人間関係にあって、今忘れてはならないものは何なのか、共に考える機会として企画をさせていただきました。結果としては開催中止の判断をせざるを得なかった訳ですが、困難な状況の中でもモチベーションを保ち、目標に向かって会員が課題を共有していった作業は、今後の会活動において大きな財産となったように感じています。

会活動を進める現場では、必ずしも皆の意見が一致することばかりではありません。真剣であればあるほどに、時に議論は熱い火花も散らします。しかし、その濃密な時間を通して共に踏み出す一歩には、きっと大きな力があると信じています。様々な意見と、それぞれの問題意識が交差する先に、いつも無限の可能性を秘めているのが鸞翔会です。

お互いを尊重し思いを聴きあう、そのことを大前提としながら、今後もそれぞれが自由に表現される鸞翔会でありたいと思います。

当会の歴史は、難民問題や阪神淡路・東日本大震災など、各時世におい

て様々な形で現れる社会の諸問題やいのちの苦悩に、僧侶としてどう向き合っていけばいいのかを問い続けた歴史でもありました。

先般、ロシア軍によるウクライナへの侵攻が開始され、連日の報道を通して現地の方々の恐怖と悲しみ、絶望が映し出されています。繰り返される惨劇を目の当たりにし、自分達に何か出来ることはあるのか。現会員もまた、それぞれの思いを抱えています。

コロナや戦争、人々の不安や恐怖が増大する世の中にあつて、私たち仏教徒だからこそ発信できる言葉や活動があるはず。敵や味方という対立構造や、相互不信が深まる現代に、「十方衆生」と呼びかけられた仏の願いは、私たちに何を問いかけているのでしょうか。教えに生きるものとして、今後も会員と話し合いを続けながら、これからの活動を模索していきたいと思えます。

来年度は延期されていた第二十三回ダーナ・バザーの開催も予定されています。発会当初から受け継がれてきた、大切なチャリティ活動の一つです。鸞翔会の伝統とも言える、これまでの枠組みに捉われない多種多様な視点と、そこから生まれるチーム力を強みに、準備を進めてまいりたいと思います。

皆さまには、今後も変わらぬご指導ご助言を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

井波別院永代経法要出勤

令和3年7月23日

宝教寺 海老板 秋彦

井波別院永代経法要に出勤させて頂きました。一年間にご往生された門信徒の方々を追悼する法要であります。

私はこの永代経法要のお勤めで、璣珞伽陀を担当させて頂きました。報恩講や法事のお勤めで稀に耳にすることはありましたが、自分がやるとなるとやはり難しいものでした。他の寺族青年会の先輩方やOBの方にご指導頂きながら練習をしました。

新型コロナウイルスの感染も未だ治まらず、葬儀やお通夜に参加できる人数も限られたままで、縮小して行われる事が主流になってきました。

去年の暮れの事ですが、私が事務員として勤めている保育園の職員さんのご家族が亡くなられ、そのお通夜に行ってきました。僧侶としてでなく、ひとり人間としてお通夜に行く機会は少なく、その時コロナ禍で変わってしまったお葬式の現場を目の当たりにしました。お通夜に参列できるのはご家族と親戚のみで、私は葬儀場に入って焼香をし、ご遺族に挨拶をして帰っていただくだけでした。それは一瞬の出来事のように、なんとも寂しいことだと思いました。コロナ禍になり、人との縁が薄らいでいく中、今回の井波別院永代経法要が無事お勤めできてよかったです。



私は僧侶になりたての頃、あまり他のお寺の方との付き合いがなく不安に思っていた事もありましたが、この寺族青年会に誘って頂いて、横の繋がりができました。このご時世

に、人との繋がりができるのはとても有り難く、大事にしていききたいと改めて思いました。

オンライン坊主バー

令和3年8月28日

光照寺 公文名 智

8月28日に光照寺本堂より北日本新聞主催オンライン坊主バーがインターネット中継されました。この企画は北日本新聞の「漂う、言葉。」という特集の一環として、事前に視聴者の方から僧侶への質問やお悩み相談をいただき、その一つ一つに私たちの思いを語るという形式で行われました。

質問者の年齢は10代から60代と幅広く、内容に関しても恋愛や職場の人間関係に関するもの、介護や老後の不安、中には浄土真宗の教えに関する質問などもあり、さながら社会の縮図がここにあるかのような濃密な時間となりました。対話形式ではなく、こちら側が一方的に返答していくという流れでしたが、若手僧侶が脂汗を滲ませながら必死に言葉を紡いでいく姿は割と好評だったようで、次回開催が望まれます。

鸞翔会会員も所属する仏教青年会においては、一般の方と僧侶が一つのテーマに関



してそれぞれの思いを語り聴き合う「哲学カフェ」という交流会も開催されました。社会との関わりの中で学びを深めていくためには、こういった活動を継続して続けていくことが重要だと思います。そしてそういった時に私たち僧侶は「言葉」を大事にしないとダメですね。

北日本新聞の特集「漂う、言葉。」というタイトルからイメージするのは、氾濫するさまざまな言説の中から私たち一人ひとりが大事な言葉を掴んでいく姿でした。大きな言葉に流されず、漂う小さな言葉を大事にしながら鸞翔会の活動を続けていきたいと思っています。

寺青連研

令和3年9月26日

長光寺 織田 朋希

2021年9月26日に「思いを聴きあう〜今、私たちに何ができるか?〜」をテーマに、本誓寺耳浦康真講師のもと、第一回寺族青年会連続研修会が開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ZOOM（リモート）を使用して、命の問題に主題を置き、自分たち僧侶の不安要素や弱点などを班別に話し合いました。

コロナウイルス感染症の影響によって自死された人と残されたご家族に対する向き合い方、人との向き合い方、10代20代の宗教観、時代の流れと僧侶の在り方など、コロナ禍で社会的な不安や寺院での不安が多くあった若手僧侶たちの現実的な声を聞くことができました。

班別意見交換後、講師からの所感をいただきました。「コロナウイルス感染症がなかった頃の元の生活に100%戻ることは不可能である。元の生活に戻すのではなく、今自分たち僧侶にできることを見出すことが重要である。今後の方針を示していくことが大事。」とお言葉は、自分に何が足りないか、何がで



きるのかを問いかけるきっかけとなりました。耳浦講師は「僧侶は人びとの前でお話をする機会が多い。そこでただ仏教の話をするだけではなく、遺族や聴き手の気持ちに寄り添い、悲しみを共感していくことが大事である。」とも仰っておられました。このお言葉は僧侶としてだけではなく、人が人と関わる上でブレてはいけない芯であるように感じました。対話の重要性、そして対話とは共感であり向き合うことであることを再確認いたしました。

浄土真宗のみ教えは命を終えて、終わりになる世界ではありません。お浄土に生まれ、仏として新たな命を頂いていく世界です。今回の研修会では、生きること、死ぬことは、かけがえのないことであると今一度深く考えることができました。

耳浦講師をはじめ高岡教区寺族青年会参加者の皆さまにお世話になり、大きなご縁にお会いできましたこと心より感謝いたします。

実践運動研修会

令和3年12月19日

聴信寺 石黒 英俊

2021年12月19日（日）、西本願寺高岡会館にて高岡教区寺族青年実践運動研修会が開催されました。南砺市福野の本福寺住職の栗山宣雄先生を講師にお迎えし、「『コロナ禍のビハールを考える』〜変化する社会の中で〜」とい



うテーマで御講話頂きました。

まずは、コロナウイルスの感染拡大について振り返ると、2019年12月初旬に中国武漢市で第一例目の感染者が報告された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、わずか数カ月の間にパンデミックと言われる世界的な流行となりました。日本国内でも2020年1月15日に最初の感染者が確認されて以来、現在にいたるまで2年以上の間、形を変えながら流行が続いています。コロナウイルスの流行に伴い、私たちの生活形態は著しく変化しました。当たり前だと思っていた日常は崩れ去り、経済環境・雇用・働き方などの表面上の変化にとどまらず、閉塞感が加速する社会の中でメンタルヘルスの悪化は老若男女に関わらず広がっています。先行きの見えない現状の中、何が出来るのかを問い続けるだけで何もしてこなかった私にとって、栗山先生の貴重なお話はどれも大きな指針となるものでした。

はじめに、人との関わり方に対する姿勢の甘さを知らされました。対象者の線引きのない活動がいかにか大切にを伺う中で、先生の「僧侶と家・習俗・習慣の関係から、これからは個人の人生と一対一の対応が僧侶に求められる時代になってきた。自分を見せずに心に鎧をまとっている人が多い中、そこに切り込むことが浄土真宗ではないか。」という言葉にはとさせられました。うまくいかないことの方がほとんどだとおっしゃっていました。自分は常に人との距離を保つて当たり障りのない話ばかりをしてきたと痛感しました。ささいなことでもきちんと向き合い、共に考え寄り添う姿勢ができていなかったと思います。これからは、専門的な知識はもちろん必要ですが、それ以上に社会問題をはじめ多岐にわたり興味・関心を持ち、知見を広め、問い続ける姿勢を大切にしようと思えました。

新入会員の紹介



長光寺 織田 朋希さん

五位組長光寺の織田朋希と申します。2020年に京都から自坊に戻ってまいりました。教区や寺青のことについて、経験が浅く、知らないことが沢山あります。是非ご教授いただけますと嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。



西光寺 養藤 了佑さん

五位組の養藤了佑と申します。この度は、貴重なご縁がありありがとうございます。皆さまからたくさんのことを学びたいと思います。よろしくお願いいたします。趣味で吹奏楽をしております。トロンボーンや打楽器を主に演奏しています。これからどうぞよろしくお願いいたします。



安詳寺 五十田 秀慧さん

砺波組の五十田と申します。寺族青年会の皆さんとの関わりの中で、沢山のことを学んでいきたいと思っています。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

次にいのちを問い続ける姿勢が足りなかったと知りました。親鸞聖人は九歳で出家なさる際に「明日ありと思う心のあだ桜 夜半に嵐の吹かぬものは」とお言葉を残されましたが、自分は明日が来るのが当たり前だと思い、今をおろそかにしながら生きてきたように思います。人は誰もが人生の荒野を生きているからこそ、時には多角的視点で自身を捉えるためにも、自分以外の声（命の音）を聞き、学び続けなければならぬ、と。その耳を傾ける姿勢こそが自身の物差しを相手に押しつけずに、寄り添う姿勢を築く近道だと思いました。最後に、いつ命がつきようとも、我が人生に一片の悔いなしと思えるように、過去にとらわれず、未来に憂えず、今この瞬間を大切にし続けることを初心に据え、精進していこうと思います。補足ですが、エリザベス・キューブラー・ロス博士の『死の許容への5ステージ』は読んでおいた方が良いでしょう。



蓮花の会

代表 水上 法恵

昨年に引き続きコロナに振り回された一年でしたが、皆さんどのように過ごされたでしょうか？

今年度の蓮花の会は何も活動することが出来ませんでした。例年は茶話会をしたり、料理教室や手芸に挑戦したり、交流しています。コロナが落ち着いたら、また茶話会から活動していきたいです。新規会員も随時募集しているのですが、お寺の知り合いを作りたい女性会員の方、ぜひ参加してくださいね。

雅楽サークル

代表 麻生 裕善

2020年9月27日に勝興寺にて第3回目となる「ふるこはんフェス」への参加を最後に活動を休止しております。2016年に結成し、雅楽サークルと

して鸞翔会に承認されて以降、毎月練習に加え参加会員独自に企画する演奏会や法要への出仕など、徐々に活動の幅を広めつつあった中で、このような状況が続く非常に歯痒い思いをしています。活動については、特筆することが無いので少し歴史について触れてみたいと思います。

雅楽は最初、飛鳥時代に朝鮮半島より仏教とともに日本にやってきたと言われています。それから長い時間をかけて日本文化と融合しながら成熟し、平安時代中期に完成しました。それから千年以上の時を超えて、当時と同じ楽器、当時と同じ音色を聞くことができることから、現存する世界最古のオーケストラと言われています。雅楽は、いにしえより伝わる音色をそのまま感じる事ができる、ロマンあふれる音楽です。指揮者はおらず、一人一人がお互いの音を確認しながら演奏する、非常に繊細なのですが、音が合わさった時にはなんとも言えない美しい旋律を感じることが出来ます。

少し格好をつけた言い方をしましたが、普段は和気藹々と楽しくやっていますので、ご興味のある方は、見学だけでもいいので是非お気軽にお声掛けいただければと思います。状況を注視しつつ練習を再開しながら、また色んな企画をしていきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願いたします。

フットサルサークル

代表 麻生 裕善

活動を自粛してから約2年が経ちました。月一回必ず活動していたのが、懐かしくも思える今日この頃です。浄青僧加盟団体による持ち回りで、年一回開催される浄青僧カップ全国大会も残念ながら2年連続延期となりました。このサークルの参加者は未経験の方も多く、寺青会員のみならず組を超えた幅広い世代間の交流に大きな魅力があります。

私自身、寺青退会まであと2年となりました。もともと鸞翔会に入ることになったのはこのフットサルサークルに参加したことがきっかけでした。それからたくさん先輩や後輩に出会い、一緒に汗を流していく中で多くの仲間ができました。気付いた時にはすでに寺青会員でした(笑)。小さなことでも悩み苦しみ、喜びを分かち合える仲間がいることはいいことです。

これから状況に応じて再開をしていこうと思います。またフットサル以外のことも皆さんの知恵をお借りしながら色々企画していければと思います。

フットサル未経験、会員以外の方も大歓迎です。ご興味のある方は、是非とも連絡をお待ちしております。

手話サークル

代表 射水 梓

手話サークルでは2020年度にコロナ禍が始まる以前、脇坂菊雄さんをご講師に迎え月に一回程度手話の練習を行っていました。しかし前年度と同じく今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大が収まる気配はなく、練習の機会を持つことができませんでした。

手話で会話をする際には、手の動きだけでなく相手の口の形や表情から内容を読み取ることも大切になりますので、マスクの着用が必要な現在では、複数人が集まっただけの活動は困難な部分もあります。他サークルではオンラインでの学習や、フェイスシールドの着用等対策を取るところもあつたそうです。

当サークルでもまたどのように活動が続けるか、サークル員と話し合っていきたいと思えます。

また、現状練習に参加することが出来る現役の寺族青年会会員が少なく、ほとんどがOBの方になっています。

次回の手話サークルの練習日は未定ですが、再開しました時には以降の予定などお知らせいたしますので、ご興味を持たれた方は伏木組光西寺射水までご連絡ください。

よろしくお願いたします。

退会の言葉



速願寺 勝山 忠顕さん

長い間お世話になりました。あまり活動に参加できませんでしたが、バザーや研修旅行など、楽しい思い出ができありがとうございました。



廣済寺 福田 慶隆さん

寺青には本当にお世話になりました。思えばいろんな活動に参加させてもらってきましたが、いざ振り返ってみると、一番うれしいのは活動を通してたくさんの方々と出会えたことです。

特に同じ教区の寺族青年の皆さんと知り合えたことは、富山に帰り不安だらけだった自分に、仲間がいるという大きな安心を与えてくれるものでした。皆さんとのつながりが、寺青活動のみならず、法務はもちろんのこと、日々の生活の中でも力になったように思います。

どうかこれからも寺青が人の輪をつなげていく場であってほしいと願っています。本当に今までありがとうございました。

P.S. そしてこれからも寺青OBとして宜しくね(^^)

新入会員募集・ホームページ・公式SNS

寺族青年会（鸞翔会）では新入会員を大募集しています！気軽に参加してみませんか？



ホームページ(NEW)
<https://ranshokai.jp/>



Facebook
<https://www.facebook.com/ranshokai/>



Instagram
https://www.instagram.com/ranshokai_takaoka/



Twitter
https://twitter.com/ren_namnam/

法輪せんべいのご案内



平素より法輪せんべいをご最買いただきありがとうございます。法輪せんべいは、射水市の萬松堂本舗さんで、一枚一枚丁寧に手焼きされ、袋詰めされています。味は上品な甘さで、硬さもちょうど良く、お茶はもちろん、コーヒーや紅茶にもよく合います。お好みでモナカのようにアイスクリームやあんこ、生クリーム等を挟んでもおいしくいただけるかと思えます。食べたことのない方は是非一度ご賞味いただければと思います。一袋二枚入りとなっております、法要時のお供え、来寺の御門徒さんへのお茶菓子、お茶請けにも最適です。

収益金は、寺族青年会の活動や自然災害被災地支援、または支援活動等に充てられます。

特大 (170袋入)	10,000円
バラ (1組10袋入)	600円

※1組は、桜色5袋・若草色5袋単位での販売です

お申し込み、お問い合わせは
代表番号 050-5587-7708
アドレスはhourin18@gmail.com

なまもろーど四十七号の発行にあたり、会員の皆様にはご協力をいただき有難うございました。

新体制となった今年度は、浄青僧本山総参拝という大きな行事が控えておりましたが、コロナの感染状況を鑑み中止という決断を下すに至りました。ただ、この一年の活動を振り返りますと、オンライン研修会やオンライン坊主バーなど、社会状況に臨機応変に対応していく「鸞翔会らしい活動」が見られたように思えます。依然続くコロナ禍やウクライナの人道危機など、鸞翔会として向き合っていない問題が山積んでいます。

情報を発信するだけではなく、問いを投げかけていく媒体として、広報活動がより活発なものになるよう引き続きご協力をお願い致します。

編集後記